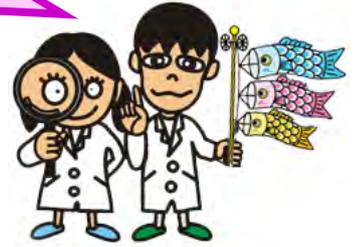


感染症に気をつけよう!

2016年【5月号】



横浜市内の感染症 流行状況

感染症	流行状況		説明 【解説付き既刊号等】 ← クリック
	★ 散発	➡ 減少	
インフルエンザ	★ 散発	➡ 減少	昨シーズンより 5 週遅く、3 月下旬に警報が解除されています。4 月に入っても患者発生がありました。【'16.4 号】
流行性耳下腺炎 (おたふくかぜ)	★ やや流行	➡ 横ばい	例年より多い状況が続いています。予防には手洗いが大事です。1 歳から予防接種が受けられます。【ワクチンちらし】
A 群溶血性 レンサ球菌咽頭炎	★ 散発	➡ 横ばい	例年に比べ多いです。かぜに似た症状ですが、治療には抗生物質が必要で、腎炎等の合併症もみられます。【'15.3 号】
流行性 角結膜炎	★ 散発	➡ やや増加	集団で大きな流行を起こすこともあり、はやり目とも呼ばれます。正しい手洗いを習慣づけ、タオルの共有は止めましょう。

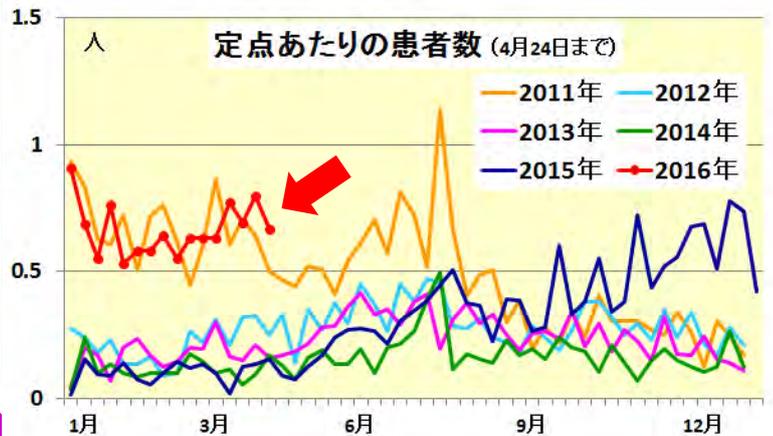
今、気をつけたい感染症 流行性耳下腺炎(おたふくかぜ)



- 全国的にも、過去 5 年間と比較して、やや多くなっています。
- 咳のしぶきや(飛沫感染)、唾液で汚れた物などから(接触感染)うつります。



- 耳の下やあごの下の腫れと痛みが特徴です。
- 髄膜炎等の合併症を起こす場合もあり、まれに重い難聴が一生残る例もみられます。
- 子供に多いですが、大人でもかかります。



- ワクチン接種は効果的な予防方法です。
- 保育園など集団生活に入る前に受けましょう。かかりつけ医にご相談ください。

